

報道各位

2022年4月14日

公益財団法人石橋財団 アーティゾン美術館

ジャム・セッション 石橋財団コレクション×柴田敏雄×鈴木理策

写真と絵画ーセザンヌより 柴田敏雄と鈴木理策

2022年4月29日[金・祝]ー7月10日[日]

作品点数が変更になりました。



柴田敏雄《山形県尾花沢市》2018年 作家蔵



鈴木理策《サンサシオン 09, C-58》2009年 作家蔵

公益財団法人石橋財団アーティゾン美術館（館長 石橋 寛）は、「ジャム・セッション 石橋財団コレクション×柴田敏雄×鈴木理策 写真と絵画ーセザンヌより 柴田敏雄と鈴木理策」を開催します。

写真が19世紀に発明され普及し始めた頃と時を同じくして、絵画は印象派をひとつの起点として、それまでの伝統的な表現から大きな変革を繰り返し、そのモチベーションには写真の存在が少なからずありました。他方写真は19世紀半ばの誕生の頃より、美術作品として、記録的な目的ではない絵画的な表現が模索され、その意識はその後現代に至るまで綿々と続いています。現代の作家、柴田敏雄と鈴木理策の写真作品には、人間がものを見て表現するという、近代絵画に共通する造形思考が感じられます。このたびのジャム・セッションは、両作家がその活動の初期より関心を寄せ続けていたセザンヌの作品を起点に、現代の写真作品と絵画の関係を問う試みです。

展覧会は6つのセクションで構成されます。4つのセクションでは新作を含めた両作家の作品と石橋財団のコレクションとのセッションが展開されます。ポール・セザンヌのセクション、雪舟のセクションでは3者の作品の共演が行われます。柴田・鈴木両名の新作・未発表作品約130点を含む約240点と、石橋財団コレクションより約40点、計280点を超える作品で構成します。

【本展の見どころ】



柴田敏雄《高知県土佐郡大川村》2007年
東京都写真美術館蔵



ポール・セザンヌ《サント=ヴィクトワール山とシャトー・ノワール》1904-1906年頃
石橋財団アーティゾン美術館蔵



鈴木理策《サンサシオン 09, C-58》2009年 作家蔵

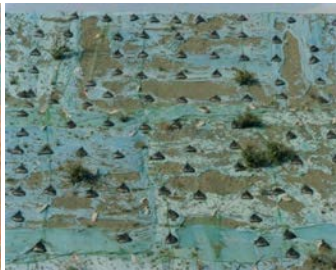
ダムや橋といった自然の中の人工的構造物を題材に、自らの作品を絵画との関係を意識して形態を単純化し、かつ主たるモチーフを浮かび上がらせることで見る者の想像力に働きかける柴田敏雄。サント=ヴィクトワール山、セザンヌのアトリエ、桜や雪といった対象を、カメラという機械の知覚を通して、人間がものを「見ること」への問題意識を提示する鈴木理策。

柴田・鈴木両作家にとって、ポール・セザンヌの自然に即しながら自己の視覚的感覚を実現することを果敢に試みた芸術家としての態度とその革新的な作品は、その活動の初期より重要な参照であり続けました。

本展では、セザンヌのみならず、柴田は藤島武二やアンリ・マティス、ピート・モンドリアン、鈴木はギュスターヴ・クールベやクロード・モネ、ピエール・ボナールといった絵画の視点を織り交ぜることで、両作家が「写真」を通じて提示する、作品の特異性とその魅力をご紹介します。



ピート・モンドリアン《砂丘》1909年
石橋財団アーティゾン美術館蔵



柴田敏雄《山梨県南巨摩郡身延町》
2021年 作家蔵



ピエール・ボナール《桃》1920年
石橋財団アーティゾン美術館蔵



鈴木理策《Still Life 21, ST-127》
2021年 作家蔵

柴田敏雄

1949年東京生まれ。東京藝術大学大学院油画専攻修了後、ベルギーのアントワープ市立アカデミー写真科に入り、写真を本格的に始める。日本各地のダムやコンクリート擁壁などの構造物のある風景を大型カメラで撮影、精緻なモノクロプリントで発表、2000年代よりカラーの作品にも取り組み始め、その表現の領域を広げる。国内外多数の美術館に作品が収蔵されている。

鈴木理策

1963年和歌山県新宮市生まれ。東京総合写真専門学校研究科卒業。地理的移動と時間的推移の可視化を主題にシークエンスで構成した第一写真集『KUMANNO』を1998年に刊行。一貫して「見ること」への問題意識に基づき、熊野、サント=ヴィクトワール山、桜、雪、花、ポートレート、水面等のテーマで撮影を続け、展覧会や写真集により作品発表を重ねている。

石橋財団コレクションとは

石橋財団コレクションは、創設者・石橋正二郎の個人収集から始まり、その後、公益財団法人石橋財団によって引き継がれました。現在約 3,000 点を数えるコレクションは、西洋絵画、日本近代洋画をはじめとして、西洋・東洋の彫刻や陶磁器、中国・日本書画にまで渡り、さらに 20 世紀美術、現代美術にまで視野を広げています。

ジャム・セッションとは

ジャム・セッションは、アーティゾン美術館のコンセプト「創造の体感」を体現する展覧会です。アーティストと学芸員が共同して、石橋財団コレクションの特定の作品からインスパイアされた新作や、コレクションとアーティストの作品のセッションによって生み出される新たな視点による展覧会を構成します。過去から現代、次代へ向けての架け橋となるプロジェクトを目指します。今後も、毎年一回開催する予定です。

【出品作品】

柴田敏雄



《茨城県日立市》2008年 作家蔵



《ベルギー ゲント》1979年 作家蔵



《栃木県那須塩原市》2020年 作家蔵



《栃木県日光市》2013年 作家蔵

鈴木理策



《ジュエルニー 16, G-41》2016年 作家蔵



《知覚の感光板 18, PS-434》2018年 作家蔵



《サンサシオン 09, C-96》2009年 作家蔵



《りんご 21, P-13》2021年 作家蔵

石橋財団コレクション



雪舟《四季山水図》室町時代 15世紀 重要文化財 石橋財団アーティゾン美術館蔵

【広報用図版】

1点のみ掲載の場合は1ページ目の2点よりお選びください。
本リリースに掲載の画像は、下記サイトからダウンロードしていただけます。
掲載時には必ずクレジットをご記載ください。また、文字載せやトリミングはご遠慮ください。



広報用画像データのダウンロードはこちら <https://www.artpr.jp/artizon/shibatasuzuki2022>

【開催概要】

展覧会名： ジャム・セッション 石橋財団コレクション×柴田敏雄×鈴木理策

写真と絵画ーセザンヌより 柴田敏雄と鈴木理策

*展覧会タイトルを省略する場合は【写真と絵画ーセザンヌより 柴田敏雄と鈴木理策】、
もしくは【石橋財団コレクション×柴田敏雄×鈴木理策】とご記載ください。

主催： 公益財団法人石橋財団アーティゾン美術館

会場： アーティゾン美術館 6階展示室、4階展示室内ガラスケース

会期： 2022年4月29日[金・祝]ー7月10日[日]

開館時間： 10:00ー18:00 (4月29日を除く金曜日は20:00まで) *入館は閉館の30分前まで

休館日： 月曜日

入館料 (税込)： 日時指定予約制 (2022年3月1日 [火] よりウェブ予約開始)

ウェブ予約チケット1,200円、当日チケット (窓口販売) 1,500円、学生無料 (要ウェブ予約)

*この料金で同時開催の展覧会もご覧いただけます。

*ウェブ予約チケットが完売していない場合のみ、美術館窓口でも当日チケットを販売します。

*中学生以下の方はウェブ予約不要です。

*開催情報は予告なく変更となることがあります。

作品点数：約280点

柴田敏雄：約150点 (うち新作・未発表 約70点)

鈴木理策：約90点 (うち新作・未発表 約60点)

石橋財団コレクション：約40点

担当学芸員：新畑泰秀、内海潤也

同時開催：Transformation 越境から生まれるアート

石橋財団コレクション選 特集コーナー展示 ピカソとミロの版画 ー教育普及企画ー

アーティゾン美術館 〒104-0031 東京都中央区京橋1-7-2

Tel: 国内 050-5541-8600 海外 047-316-2772 (ハローダイヤル) www.artizon.museum

アクセス：JR 東京駅 (八重洲中央口)、東京メトロ銀座線・京橋駅 (6番、7番出口)、東京メトロ・銀座線/
東西線/都営浅草線・日本橋駅 (B1出口) から徒歩5分

本プレスリリースについてのお問合せ先

アーティゾン美術館 広報課 松浦・小川・宮武

*一般の方のお問合せ先は 050-5541-8600 (ハローダイヤル) です。

E-mail: publicity@artizon.jp

TEL: 03- 6263-0132 (広報課直通・誌面への掲載はご遠慮ください。)

〒104-0031 東京都中央区京橋1-7-2